

質問項目番号Ⅲ-6

あなたの就業の有無についてお答え下さい。

選択肢	度数	パーセント
就業している	640	66.60%
就業していない	295	30.70%
無回答	26	2.71%
合計	961	100.00%

表 1-9 利用者の就業の有無

○質問項目 7～8

質問項目 7～10 は、質問項目 6 において「就業している」と回答した方 640 名を対象に質問した項目である。

表 1-10 で示しているように、利用者の 63.59% (407 人) が会社員・公務員である。自営業は、10.94%となっている。

表 1-10 は、「その他」に回答した 137 人 (24.84%) の自由記述である。自由記述と質問項目 8 (表 1-12) 利用者の就労形態についてと合わせて見るとわかりやすいが、正規雇用は、54.84% (351 人) あるが、非正規雇用 12.66% (81 人) や、パート・アルバイト 19.22% (123 人) の利用者も多い。また、医療関係の職業の方の利用も多い。

質問項目番号Ⅲ-7

あなたの職種について教えて下さい。

選択肢	度数	パーセント
会社員・公務員	407	63.59%
自営業	70	10.94%
学生	3	0.47%
その他	159	24.84%
無回答	1	0.16%
合計	640	100.00%

表 1-11 利用者の職種について

Ⅲ-7 あなたの職業について教えてください。
選択肢「その他」の自由記述一覧

自由記述	度数	パーセント
アルバイト、パート、嘱託・臨時職員、派遣、NPO	36	26.28%
看護師・医師・歯科衛生士・薬剤師・助産師	32	23.36%
専門職、コーチ、インストラクター、ヨガ、手話通訳者、音楽家、赤ペン先生、司会者、美容師、栄養士、内職、個々の依頼、音楽・ピアノ講師	22	16.06%
サービス業、接客業、飲食店、販売、小売業、教材販売、製造業	18	13.14%
教員・塾講師・講師・大学教員、団体職員、独法職員	16	11.68%
介護職、介助者、リハビリスタッフ、社会福祉士、保育士	12	8.76%
会社役員	1	0.73%
合計	137	100.00%

表 1-12 利用者の職種「その他」について

質問項目番号Ⅲ-8

あなたの就労形態についてお答え下さい。

選択肢	度数	パーセント
正社員 (正規雇用)	351	54.84%
契約社員・臨時職員 (非正規雇用)	81	12.66%
パート・アルバイト	123	19.22%
自営業	61	9.53%
在宅ワーク	10	1.56%
その他	14	2.19%
合計	640	100.00%

表 1-13 利用者の就労形態について

○質問項目 9～10

質問項目 9～10 は、前項目と同様、質問項目 6 において「就業している」と回答した方 640 名を対象に質問した項目である。質問項目 9 は、利用者の一週間の就業日数である。表 1-13 に示しているが、週 5 日以上～週 6 日未満が、もっとも多く 63.13% (404 人) である。週 6 日以上が 9.22% (59 人)、週 7 日が 1.25% (8 人) である。また、質問項目 10 は、利用者の一日の仕事時間についてであり、表 1-14 に示している。9 時間以上～11 時間以内が 28.1% (180 人)、12 時間以

上が 1.88% (12 人) いる。質問項目 9～10 からは、子育てしながら、過酷な労働条件の中で就業している層があることがわかる。

質問項目番号Ⅲ-9

一週間に何日就業していますか。

選択肢	度数	パーセント
週1日以上～週2日未満	37	5.78%
週2日以上～週3日未満	38	5.94%
週3日以上～週4日未満	45	7.03%
週4日以上～週5日未満	46	7.19%
週5日以上～週6日未満	404	63.13%
週6日以上～週7日未満	59	9.22%
週7日(毎日)	8	1.25%
無回答	3	0.47%
合計	640	100.00%

表 1-13 利用者の一週間の就業日数について

質問項目番号Ⅲ-10

一日の仕事時間をお答え下さい。

選択肢	度数	パーセント
4時間以下	101	15.78%
5～8時間以内	345	53.91%
9時間以上～11時間以内	180	28.13%
12時間以上	12	1.88%
無回答	2	0.31%
合計	640	100.00%

表 1-14 利用者の一日の仕事時間について

○質問項目 11

質問項目 11 は、利用者のファミリー・サポート・センター事業利用歴である。質問項目 11 以降は、利用者 961 人全体を対象としている。

表 1-15 に示しているように、最も多いのは、1年以上～2年未満 22.89% (220 人)、続いて半年以上～1年未満 19.15% (184 人)、2年以上～3年未満 15.09% (145 人)、半年未満が 14.98% (144 人)

の順である。つまり、3年未満の利用歴が、約7割(72.11%)である。

質問項目番号Ⅲ-11

ファミリー・サポート・センター事業の利用歴をお答え下さい。

選択肢	度数	パーセント
半年未満	144	14.98%
半年以上～1年未満	184	19.15%
1年以上～2年未満	220	22.89%
2年以上～3年未満	145	15.09%
3年以上～4年未満	80	8.32%
4年以上～5年未満	61	6.35%
5年以上～6年未満	48	4.99%
6年以上～7年未満	20	2.08%
7年以上～	27	2.81%
無回答	32	3.33%
合計	961	100.00%

表 1-15 利用者利用歴

○質問項目 12

質問項目 12 は、利用者の月間事業利用頻度である。「ファミリー・サポート・センター事業のおおよその月間利用頻度をお答え下さい。」という質問項目を設定し、「おおよそ月()回」という自由記述の回答を求めた。その回答から、「月1回未満」「月1回以上～週1回未満」「週1回以上～週2回未満」「週2回以上～週3回未満」「週3回以上」「無回答」と区分したのが、表 1-16 である。最も多いのは、「月1回以上～週1回未満」28.82% (277 人) である。週1回以上利用している層は、45.57% である。月1回未満は、14.05% (135 人) であり、後述する自由記述にもあるが、あまり利用はしないが、利用登録しているだけでも心強く感じている利用者がいる。

質問項目番号Ⅲ-12

ファミリー・サポート・センター事業のおおよその月間利用頻度をお答え下さい。

選択肢	度数	パーセント
月1回未満	135	14.05%
月1回以上～週1回未満	277	28.82%
週1回以上～週2回未満	165	17.17%
週2回以上～週3回未満	188	19.56%
週3回以上	85	8.84%
無回答	111	11.55%
合計	961	100.00%

表 1-16 利用者の月間事業利用頻度

○質問項目 13～14

質問項目 13 は、利用者が、提供会員を兼ねているかどうか（両方会員かどうか）という質問である。また質問項目 14 は、質問項目 13 において「いいえ」と回答した 785 人に対して回答をもとめた。

表 1-17 に示すように、提供会員でない利用者が 81.69%（785 人）であり大部分を占める。ただ、「はい」と回答した 15.7%（151 人）は、時間に余裕が有るときは、他の利用者の子どもを預かっている様子が伺える。

つづいて、質問項目 14 では、表 1-18 に示すように、44.20%（347 人）の方が、今後、提供会員になりたいと回答している。また、「いいえ」を選択した 52.87%（415 人）の中にも、質問項目 15 の自由記述の中で、以下のように、時間ができたら考えたいという回答もあった。

「ID504 自営業のため、仕事に就かないといけないため。小さなお子さんと触れ合う機会は持ちたいと思うので仕事が一段落してからぜひ提供会員に立候補したいと思います。（ID は、調査票番号）」

質問項目番号Ⅲ-13

あなたは、両方会員（利用会員と提供会員）ですか。

選択肢	度数	パーセント
はい	151	15.71%
いいえ	785	81.69%
無回答	25	2.60%
合計	961	100.00%

表 1-17 利用者が提供会員でもあるか（両方会員かどうか）

質問項目番号Ⅲ-14

「13」で「②いいえ」の方は、今後、提供会員になりたいと思いますか。

選択肢	度数	パーセント
はい	347	44.20%
いいえ	415	52.87%
無回答	23	2.93%
合計	785	100.00%

表 1-18 利用者が、今後、提供会員になりたいか

○質問項目 15

質問項目 15 は、質問項目 14 「今後、提供会員になりたいと思いますか」の設問項目に対して、「はい」または「いいえ」に回答した理由の自由記述である。

質問項目 14 において「はい」と回答した 347 人を母数とすると、質問項目 15 のその理由を問うた設問に自由記述で回答した割合は、92.8%（322 人）である。

また、「いいえ」と回答した 415 人を母数とすると、質問項目 15 のその理由を問うた設問に自由記述で回答した割合は、92.5%（384 人）である。

まず、「はい」と回答した方の自由記述を整理すると、表 1-19 の 10 のカテゴリーに分けられる。

次に、「いいえ」と回答した方の自由記述を整理すると、表 1-20 の 8 のカテゴリーに分けられる。

「はい」「いいえ」両方の自由記述のカ

テグリー化において、一人の文章を要素ごとに整理したので、別のカテゴリーに複数カウントしている場合がある。

また、基礎資料については、章末に掲載している。

提供会員になりたい理由	人
1) 助けてもらった、支えられた経験から恩返ししたい。	190
2) 助け合いたい、人の役に立ちたい、地域に貢献したい	103
3) 退職後や子どもの手が離れるなど、時間ができたらやってみりたい	76
4) 子ども好き (24人)	24
5) 地域のつながりを持ちたい、友達	8
6) 資格や経験が生かせる	7
7) 子どもの育ちのため	10
8) 収入を得たい	4
9) 提供会員数が足りない	3
10) その他	8

表 1-19 提供会員になりたい理由

提供会員にならない理由	人数
1) 時間がない、子育てで手一杯、まだ考えられない仕事がある	288
2) 子どもを預かる自信がない、力量的に無理、いまの提供会員さんのようにはできない、責任が持てない	70
3) 体力、体調が悪い、障害など	11
4) 大変そう	7
5) 家庭の事情	6
6) 子育ては楽しくない、子どもがかわいく	6
7) 体制がない	4
8) その他	1

表 1-20 提供会員にならない理由

○質問項目 16

質問項目 16 は、利用者が同居しているか、または、近隣に親族が住んでいるかどうかについての回答である。

表 1-21 に示すとおり、「はい」を選択したのは 47.30% (455 人)、「いいえ」を選択したのは、49.27% (474 人) であ

る。親族が近隣に住んでいても、ファミリー・サポート・センター事業の利用は高い。

質問項目番号Ⅲ-16

同居、あるいは日常通える距離に親戚や祖父母は住んでいますか。

選択肢	度数	パーセント
はい	455	47.35%
いいえ	474	49.32%
無回答	32	3.33%
合計	961	100.00%

表 1-21 利用者が同居しているか、または近隣に親族が住んでいるか。

○質問項目 17

質問項目 17 は、利用者の、現在の地域での居住年数である。回答は、「おおよそ () 年」という自由記述であり、それを、表 1-22 に示すとおり、「1 年未満」「1 年以上～5 年未満」「5 年以上～10 年未満」「10 年以上～15 年未満」「15 年以上～20 年未満」「20 年以上」という 6 つに区分し整理した。

10 年未満という回答が、約 6 割 (60.04%) を占める。利用者は、30 代が多いことを考えると、生まれてからずっと同じ地域に住んでいる利用者が、「20 年以上」を選択したと考えると、その回答者は、12.70% (122 人) となる。

質問項目番号Ⅲ-17

現在の街に住んで、何年経ちましたか。

選択肢	度数	パーセント
1年未満	6	0.62%
1年以上～5年未満	251	26.12%
5年以上～10年未満	320	33.30%
10年以上～15年未満	176	18.31%
15年以上～20年未満	51	5.31%
20年以上	122	12.70%
無回答	35	3.64%
合計	961	100.00%

表 1-22 利用者の居住年数

○質問項目 18①～⑦

質問項目 18 は、利用者が利用している援助内容についての設問である。利用者は、複数の選択肢を選び回答できるようにした。

回答は、表 1-23～表 1-26 に示している。利用者の分母を 961 人とした時、割合が多い順番では、

- ・保護者等の病気や休養等の場合に子どもを預ける。・・・30.07%
- ・保育所・幼稚園の開始前や終了後の子どもを預ける・・・20.92%
- ・自宅から保育所等への送迎・・・20.29%
- ・学校の放課後や学童保育終了後、子どもを預ける・・・16.75%
- ・買い物等外出の際、子どもを預ける
・・・12.47%
- ・冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際、子どもを預ける
・・・11.86%
- ・学校の夏休みなどに子どもを預ける
・・・6.35%

質問項目番号Ⅲ-18①

援助内容(自宅から保育所等への送迎。)

選択肢	度数	パーセント
利用していない	741	77.11%
利用している	195	20.29%
無回答	25	2.60%
合計	961	100.00%

表 1-23 援助内容(自宅から保育所等への送迎)

質問項目番号Ⅲ-18②

援助内容(保育所・幼稚園の開始前や終了後の子どもを預ける。)

選択肢	度数	パーセント
利用していない	735	76.48%
利用している	201	20.92%
無回答	25	2.60%
合計	961	100.00%

表 1-24 援助内容(保育所・幼稚園の開始前や終了後の子どもを預ける)

質問項目番号Ⅲ-18③

援助内容(学校の放課後や学童保育終了後、子どもを預ける。)

選択肢	度数	パーセント
利用していない	775	80.65%
利用している	161	16.75%
無回答	25	2.60%
合計	961	100.00%

表 1-25 援助内容(学校の放課後や学童保育終了後、子どもを預ける)

質問項目番号Ⅲ-18④

援助内容(学校の夏休みなどに子どもを預ける。)

選択肢	度数	パーセント
利用していない	875	91.05%
利用している	61	6.35%
無回答	25	2.60%
合計	961	100.00%

表 1-26 援助内容(学校の夏休みなどに子どもを預ける)

質問項目番号Ⅲ-18⑤

援助内容(保護者等の病気や急用等の場合に子どもを預ける。)

選択肢	度数	パーセント
利用していない	645	67.12%
利用している	289	30.07%
無回答	27	2.81%
合計	961	100.00%

表 1-27 援助内容(保護者等の病気や休業等の場合に子どもを預ける)

質問項目番号Ⅲ-18⑥

援助内容(冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際、子どもを預ける。)

選択肢	度数	パーセント
利用していない	821	85.43%
利用している	114	11.86%
無回答	26	2.71%
合計	961	100.00%

表 1-28 援助内容(冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際、子どもを預ける)

質問項目番号Ⅲ-18⑦

援助内容(買い物等外出の際、子どもを預ける。)

選択肢	度数	パーセント
利用していない	815	84.72%
利用している	120	12.47%
無回答	27	2.81%
合計	961	100.00%

表 1-29 援助内容(買い物等外出の際、子どもを預ける)

○質問項目 18⑧

質問項目 18⑧は、表 1-30 に示すとおり、援助内容の選択肢の「その他」に回答した利用者である。

選択肢の項目にない援助内容を、28.62%(275 人)が利用している。

質問項目番号Ⅲ-18⑧

援助内容(その他)

選択肢	度数	パーセント
利用していない	655	68.16%
利用している	275	28.62%
無回答	31	3.23%
合計	961	100.00%

表 1-30 援助内容(その他)

○質問項目 18⑧の自由記述

質問項目 18⑧において、「その他」を選択した 275 人を母集団とすると、自由記述に回答したのは、197 名(71.6%)である。

自由記述を整理すると、表 1-32 のような 8 つのカテゴリーに分けられる。

その他の援助内容	人数
1)親の仕事	83
2)子どもの習い事	38
3)親のリフレッシュ	25
4)親の通院、出産など	19
5)子どもの病気、障害	15
6)保育所の代替	3
7)家事、育児の手伝い	2
8)その他	12

表 1-32 その他の援助内容

3. 分析および考察

回答者の属性について、以下のことが明らかになった。

- ①利用者の約 8 割は、30 才以上～45 才未満である。
- ②13 才未満の子どもを持つ利用者が約 9 割である。
- ③利用者は、就業している親が多いが、就業していない親の利用も約 3 割ある。
- ④就業している利用者は、非正規雇用・パート・アルバイトが、約 3 割。また、就労時間は、9 時間以上が約 3 割。不安定で、長時間労働が約 3 割程度あるとい

うことである。

⑤利用会員のうち、約4割強が、今後提供会員になりたいと回答している。その理由として190人が、「助けてもらった、支えられた経験から恩返しをしたい」と回答している。さらに、103人が「助け合いたい、人の役に立ちたい、地域に貢献したい」と回答している。

⑥一方、利用会員のうち、約5割が、今

後提供会員にならない、と回答している。理由としては288人、「時間がない、子育てで手一杯、まだ考えられない、仕事がある」と回答している。

⑦援助内容では、その他の項目で、ファミリー・サポート・センター事業が、休日保育や待機児童対策、病児・病後児保育などの保育所の代替的役割を果たしていることがわかる。

¹ 内閣府「平成18年版少子化社会白書—新しい少子化対策の推進」平成18年、ぎょうせい参照。

² 1と同書参照。

VI 単純集計<親への調査票>

2. 親になってから最近までの心境の変化について

<要旨>

ここでは、ファミリー・サポート・センター事業の利用者 962 名から回答をえた。ファミリー・サポート・センター事業を利用している親は、ファミリー・サポート・センター事業を利用する中で、どのような心境の変化があるのだろうか。そこには親の発達につながるような変化があるのだろうか。このことを明らかにするために親の発達に関する調査項目、および選択肢を、先行研究である柏木恵子、若松素子調査を援用し、設定した。

結論としては、親の成長・発達に関する項目の中で、特に「生き甲斐・存在感」の項目が突出して高い値がでている。第1章においても述べたように、利用者は「自分が大変なときに助けて頂いた。」「誰かに恩返しをしたい」という気持ちになっている。利用者の親としての大変さを支え、自己の存在感まで支えているファミリー・サポート・センター事業の役割があきらかになったといえよう。

1. 問題設定

ここでは、ファミリー・サポート・センター事業の利用者 962 名から回答をえた。ファミリー・サポート・センター事業を利用している親は、ファミリー・サポート・センター事業を利用する中で、どのような心境の変化があるのだろうか。そこには親の発達につながるような変化があるのだろうか。このことを明らかにするために親の発達に関する調査項目、および選択肢による回答を設定した。ここで設定した質問項目は、柏木恵子、若松素子(1994)が、親の生涯発達の観点から¹検討した項目である。対象は、3～5才の幼児を持つ親 346 対(父親と母親)である。「親となる」ことによる発達として、第1因子:柔軟性、第2因子:自己抑制、第3因子:運命・信仰・伝統の受容、第4因子:視野の広がり、第5因子:生き甲斐・存在感、第6因子:自己の強さが抽出されている。

2. 選択肢の回答

柏木・若松調査における、各次元項目の

得点平均(標準偏差)は、表 2-1 の通りとなっている。また、ファミリー・サポート・センター事業利用者の各次元項目得点平均(標準偏差)は、表 2-2 の通りである。

比較してみると、一番高い数値は、やはり第3因子:運命・信仰・伝統の受容である。また、一番低い数値は、第6因子:自己の強さ

	父	母	P
第1因子:柔軟性	2.40 (0.74)	< 2.83 (0.61)	***
第2因子:自己抑制	2.57 (0.72)	< 2.99 (0.62)	***
第3因子: 運命・信仰・伝統の受容	2.71 (0.73)	< 3.12 (0.54)	***
第4因子:視野の広がり	2.21 (0.67)	< 2.60 (0.63)	***
第5因子: 生き甲斐・存在感	2.82 (0.57)	< 2.95 (0.53)	**
第6因子:自己の強さ	2.35 (0.69)	< 2.52 (0.58)	***

である。第1因子:柔軟性と第5因子:生き甲斐・存在感が若干前後するものの、数値は、同じような傾向を示している。又、全ての項目において、ファミリー・サポート・センター事業利用者の値が高い。

表 2-1 柏木・若松論文「親となることによる成長・発達」次元得点平均(標準偏差)²

注. **p<.01 ***p<.001

	利用者	P
第1因子:柔軟性	3.27 (0.73)	***
第2因子:自己抑制	3.55 (0.64)	***
第3因子: 運命・信仰・伝統の受容	3.67 (0.54)	***
第4因子:視野の広がり	3.14 (0.69)	***
第5因子: 生き甲斐・存在感	3.25 (0.59)	***
第6因子:自己の強さ	2.86 (0.70)	***

表 2-2 ファミリー・サポート・センター事業利用者の「親となることによる成長・発達」次元得点平均(標準偏差) 注. ***p<.001

ここでは柏木・若松調査を援用し、本研究における質問項目を以下の通り設定した。

第1因子:柔軟性

- 2 考え方が柔軟になった。
- 4 精神的にタフになった。
- 6 小さなことにくよくよしなくなった。
- 30 角がとれて丸くなった。
- 31 度胸がついた。
- 33 他人に対して寛大になった。
- 35 いろいろな角度から物事を見るようになった。

た。

第2因子:自己抑制

- 3 儉約するようになった。
- 8 他人の迷惑にならないように心がけるようになった。
- 9 自分本意の考えや行動をしなくなった。
- 10 他人の立場や気持ちをくみとるようになった。
- 29 人との和を大事にするようになった。
- 39 思い通りにならないことがあっても我慢できるようになった。
- 43 自分の分をわきまえるようになった。
- 46 自分の欲しいものなどが我慢できるようになった。

第3因子:運命・信仰・伝統の受容

- 11 信仰や宗教が身近になった。
- 12 常識やしきたりを考えるようになった。
- 15 伝統や文化の大切さを思うようになった。
- 25 物事を運命だと受け入れられるようになった。
- 27 人間の力を超えたものがあることを信じるようになった。
- 38 運や巡りあわせを考えるようになった。
- 41 長幼の序は大切だと思うようになった。
- 48 情にもろくなった。

第4因子:視野の広がり

- 1 弱い立場の人に思いやりを持つようになった。
- 7 どの様な人にもその人なりの良さがあると感じるようになった。
- 16 日本や世界の将来について関心が増した。
- 18 児童福祉や教育問題に関心を持つようになった。
- 20 日本の政治に関心が増した。
- 28 一人一人がかけがえのない存在だと思う

ようになった。

40 協力することの大切さがわかるようになった。

47 環境問題(大気汚染食品公害など)に関心が増した。

49 いろいろな人に支えられていると感じるようになった。

第5因子: 生き甲斐・存在感

13 気持ちが安定した。

14 慎重になった。

21 より計画的になった。

22 自分がなくてはならない存在だと思うようになった。

23 目先のことより、将来のことを考えて行動する様になった。

24 生きている張りが増した。

34 子ども好きになった。

36 自分の健康に気をつけるようになった。

37 長生きしなければと思うようになった。

42 子どもへの関心が強くなった。

44 一人前になった気がした。

45 より大人になったと感じる。

第6因子: 自己の強さ

5 物事に積極的になった。

17 多少他の人と摩擦があっても自分の主義は通すようになった。

19 妥協しなくなった。

26 目的に向かって頑張れるようになった。

32 自分の立場や考えはちゃんと主張しなければと思うようになった。

2. 選択肢の回答

2-1. 第1因子: 柔軟性の項目について

ここでは、特徴的な回答について述べる。

質問項目 2「考え方が柔軟になった。」に対する回答は、「そうなった」45.68%(439人)、「まあまあそうなった」31.95%(307人)を合わせると、77.63%(746人)となり、非常に高い値となった。同様に、質問項目 35「いろいろな角度から物事を見るようになった」についても、「そうなった」33.51%(322人)、「まあまあそうなった」37.04%(356人)を合わせると、70.55%(678人)となり、質問項目 2と同様7割を超える高い値となった。

2-2. 第2因子: 自己抑制の項目について

ここでは、特徴的な回答について述べる。質問項目 8「他人の迷惑にならないように心がけるようになった。」については、「以前からそうだった」38.29%(368名)が、全体の質問紙調査の中で2番目に高い値を示している。同様に、第2因子の質問項目については、第1因子のように「そうなった」「まあまあそうなった」の回答が合計して7割を超えるものはなかった。

2-3. 第3因子: 運命・信仰・伝統の受容の項目について

ここでは、特徴的な回答について述べる。質問項目 11「信仰や宗教が身近になった。」については、「そうなったとは思わない」が54.42%(523人)であり、全体の質問項目の中で、この点が突出している。また、質問項目 25「物事を運命だと受け入れられるようになった。」と質問項目 27「人間の力を超えたものがあることを信じるようになった。」は、「まあまあそうなった」と「あまりそうなったとは思わない」、「あるいは「あまりそうなったとは思わない」「そうなった」という相反する回答が、同数程度となっている。

2-4.第4因子:視野の広がり項目について

ここでは、特徴的な回答について述べる。質問項目 18「児童福祉や教育問題に関心を持つようになった。」について、「そうなった」が 50.57% (486 名)で、他の質問項目の中でも突出している。また、質問項目 28「一人一人がかけがえのない存在だと思ようになった。」についても同様に、「そうなった」が 47.45% (456 人)と高い。さらに、質問項目 47「環境問題(大気汚染食品公害など)に関心が増した。」は、「そうなった」47.14% (453 人)と「まあまあそうなった」25.18% (242 名)を合わせて 72.22% (695 名)となり、7割を超える高い値となった。

2-5.第5因子:生き甲斐・存在感の項目について

ここでは、特徴的な回答について述べる。

第5因子は、全体的に「そうなった」「まあまあそうなった」の回答が多い。

質問項目 24「生きている張りが増した。」は、「そうなった」が 50.68% (487 名)、「まあまあそうなった」は、27.78% (267 名)であり、合わせると 78.46% (754 名)となり、約8割となる高い値となった。同様に、質問項目 22「自分がなくてはならない存在だと思ようになった。」、質問項目 36「自分の健康に気をつけるようになった。」、さらに質問項目 37「長生きしなければと思うようになった。」、質問項目 42「子どもへの関心が強くなった。」の4項目も、7割を超える高い値となった。

質問項目 42「子どもへの関心が強くなった。」は、「そうなった」の選択肢だけで、59.04% (568 人)であり、一段と高い値を示し

ている。

2-6.第6因子:自己の強さの項目について

ここでは、特徴的な回答について述べる。

第6因子は、質問項目 17と19で、他の質問項目と違い、そうなったとは思わないという回答が目立つ。

質問項目 17「多少他の人と摩擦があっても自分の主義は通すようになった。」は、「そうなったとは思わない」21.54% (207 名)と「あまりそうなったとは思わない」46.72% (449 名)を合わせると、68.24% (656 人)という高い値になっている。質問項目 19「妥協しなくなった。」についても同様に、「そうなったとは思わない」23.10% (222 名)「あまりそうなったとは思わない」48.28% (464 名)を合わせると、71.38% (686 名)という高い値となった。

3. 分析および考察

ファミリー・サポート・センター事業を利用している親の成長・発達については、特に「生き甲斐・存在感」の項目で突出して高い値がでている。第1章においても述べたように、利用者は「自分が大変なときに助けて頂いた。」「誰かに恩返しをしたい」という気持ちになっている。利用者の親としての大変さを支え、自己の存在感まで支えているファミリー・サポート・センター事業の役割があきらかになったといえよう。

基礎資料

I. 親になってから最近までの心境の変化について

I-1 弱い立場の人に思いやりを持つようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	3	0.31%
2. あまりそうなったとは思わない	50	5.20%
3. まあまあそうなった	249	25.91%
4. そうなった	359	37.36%
5. 以前からそうだった	286	29.76%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-3 弱い立場の人に思いやりを持つようになった

I-2 考え方が柔軟になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	13	1.35%
2. あまりそうなったとは思わない	124	12.90%
3. まあまあそうなった	307	31.95%
4. そうなった	439	45.68%
5. 以前からそうだった	64	6.66%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-4 考え方が柔軟になった

I-3 儉約するようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	60	6.24%
2. あまりそうなったとは思わない	189	19.67%
3. まあまあそうなった	277	28.82%
4. そうなった	301	31.32%
5. 以前からそうだった	119	12.38%
無回答	15	1.56%
合計	961	100.00%

表 2-5 儉約するようになった

I-4 精神的にタフになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	33	3.43%
2. あまりそうなったとは思わない	163	16.96%
3. まあまあそうなった	260	27.06%
4. そうなった	395	41.10%
5. 以前からそうだった	97	10.09%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-6 精神的にタフになった

I-5 物事に積極的になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	47	4.89%
2. あまりそうなったとは思わない	251	26.12%
3. まあまあそうなった	301	31.32%
4. そうなった	212	22.06%
5. 以前からそうだった	137	14.26%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-7 物事に積極的になった

I-6 小さなことにくよくよしなくなった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	74	7.70%
2. あまりそうなったとは思わない	291	30.28%
3. まあまあそうなった	269	27.99%
4. そうなった	200	20.81%
5. 以前からそうだった	115	11.97%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-8 小さなことにくよくよしなくなった

I-7 どの様な人にもその人なりの良さがあると感じるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	20	2.08%
2. あまりそうなったとは思わない	84	8.74%
3. まあまあそうなった	292	30.39%
4. そうなった	328	34.13%
5. 以前からそうだった	225	23.41%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-9 どの様な人にもその人なりの良さ

があると感じるようになった

I-8他人の迷惑にならないように心がけるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	8	0.83%
2. あまりそうなつたとは思わない	60	6.24%
3. まあまあそうなつた	224	23.31%
4. そうなつた	288	29.97%
5. 以前からそうだつた	368	38.29%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-10 他人の迷惑にならないように心がけるようになった

I-9自分本意の考えや行動をしなくなった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	17	1.77%
2. あまりそうなつたとは思わない	142	14.78%
3. まあまあそうなつた	381	39.65%
4. そうなつた	223	23.20%
5. 以前からそうだつた	184	19.15%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-11 自分本意の考えや行動をしなくなった

I-10他人の立場や気持ちをくみとるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	8	0.83%
2. あまりそうなつたとは思わない	72	7.49%
3. まあまあそうなつた	330	34.34%
4. そうなつた	304	31.63%
5. 以前からそうだつた	235	24.45%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-12 他人の立場や気持ちをくみとるようになった

I-11信仰や宗教が身近になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	523	54.42%
2. あまりそうなつたとは思わない	226	23.52%
3. まあまあそうなつた	73	7.60%
4. そうなつた	59	6.14%
5. 以前からそうだつた	66	6.87%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-13 信仰や宗教が身近になった

I-12常識やしきたりを考えるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	46	4.79%
2. あまりそうなつたとは思わない	124	12.90%
3. まあまあそうなつた	329	34.24%
4. そうなつた	233	24.25%
5. 以前からそうだつた	217	22.58%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-14 常識やしきたりを考えるようになった

I-13気持ちが安定した。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	127	13.22%
2. あまりそうなつたとは思わない	273	28.41%
3. まあまあそうなつた	303	31.53%
4. そうなつた	177	18.42%
5. 以前からそうだつた	69	7.18%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-15 気持ちが安定した。

I-14慎重になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	63	6.56%
2. あまりそうなつたとは思わない	238	24.77%
3. まあまあそうなつた	341	35.48%
4. そうなつた	198	20.60%
5. 以前からそうだつた	109	11.34%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-16 慎重になった

I-15伝統や文化の大切さを思うようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	64	6.66%
2. あまりそうなったとは思わない	182	18.94%
3. まあまあそうなった	300	31.22%
4. そうなった	273	28.41%
5. 以前からそうだった	129	13.42%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-17 伝統や文化の大切さを思うようになった

I-18児童福祉や教育問題に関心を持つようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	16	1.66%
2. あまりそうなったとは思わない	33	3.43%
3. まあまあそうなった	268	27.89%
4. そうなった	486	50.57%
5. 以前からそうだった	146	15.19%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-20 児童福祉や教育問題に関心を持つようになった

I-16日本や世界の将来について関心が増した。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	54	5.62%
2. あまりそうなったとは思わない	159	16.55%
3. まあまあそうなった	257	26.74%
4. そうなった	358	37.25%
5. 以前からそうだった	118	12.28%
無回答	15	1.56%
合計	961	100.00%

表 2-18 日本や世界の将来について関心が増した

I-19妥協しなくなった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	222	23.10%
2. あまりそうなったとは思わない	464	48.28%
3. まあまあそうなった	169	17.59%
4. そうなった	44	4.58%
5. 以前からそうだった	46	4.79%
無回答	16	1.66%
合計	961	100.00%

表 2-21 妥協しなくなった

I-17多少他の人と摩擦があっても自分の主義は通すようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	207	21.54%
2. あまりそうなったとは思わない	449	46.72%
3. まあまあそうなった	164	17.07%
4. そうなった	65	6.76%
5. 以前からそうだった	60	6.24%
無回答	16	1.66%
合計	961	100.00%

表 2-19 多少他の人と摩擦があっても自分の主義は通すようになった

I-20日本の政治に関心が増した。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	100	10.41%
2. あまりそうなったとは思わない	233	24.25%
3. まあまあそうなった	318	33.09%
4. そうなった	204	21.23%
5. 以前からそうだった	93	9.68%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-22 日本の政治に関心が増した

I-21より計画的になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	62	6.45%
2. あまりそうなったとは思わない	191	19.88%
3. まあまあそうなった	328	34.13%
4. そうなった	255	26.53%
5. 以前からそうだった	114	11.86%
無回答	11	1.14%
合計	961	100.00%

表 2-23 より計画的になった

I-22自分がなくてはならない存在だと思うようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	25	2.60%
2. あまりそうなったとは思わない	115	11.97%
3. まあまあそうなった	286	29.76%
4. そうなった	449	46.72%
5. 以前からそうだった	75	7.80%
無回答	11	1.14%
合計	961	100.00%

表 2-24 自分が無くてはならない存在だと思うようになった

I-23目先のことより、将来のことを考えて行動する様になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	44	4.58%
2. あまりそうなったとは思わない	189	19.67%
3. まあまあそうなった	337	35.07%
4. そうなった	283	29.45%
5. 以前からそうだった	96	9.99%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-25 目先のことより、将来のことを考えて行動するようになった

I-24生きている張りが増した。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	32	3.33%
2. あまりそうなったとは思わない	95	9.89%
3. まあまあそうなった	267	27.78%
4. そうなった	487	50.68%
5. 以前からそうだった	68	7.08%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-26 生きている張りが増した。

I-25物事を運命だと受け入れられるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	86	8.95%
2. あまりそうなったとは思わない	236	24.56%
3. まあまあそうなった	261	27.16%
4. そうなった	233	24.25%
5. 以前からそうだった	130	13.53%
無回答	15	1.56%
合計	961	100.00%

表 2-27 物事を運命だと受け入れられるようになった

I-26目的に向かって頑張れるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	32	3.33%
2. あまりそうなったとは思わない	148	15.40%
3. まあまあそうなった	319	33.19%
4. そうなった	264	27.47%
5. 以前からそうだった	184	19.15%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-28 目的に向かって頑張れるようになった

I-27人間の力を超えたものがあることを信じるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	133	13.84%
2. あまりそうなったとは思わない	260	27.06%
3. まあまあそうなった	200	20.81%
4. そうなった	212	22.06%
5. 以前からそうだった	142	14.78%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-29 人間の力を超えたものがあることを信じるようになった

I-28一人一人がかげがえのない存在だと思うようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	18	1.87%
2. あまりそうなったとは思わない	45	4.68%
3. まあまあそうなった	193	20.08%
4. そうなった	456	47.45%
5. 以前からそうだった	236	24.56%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-30 1人1人がかけがえのない存在だと思うようになった

I-29人との和を大事にするようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	13	1.35%
2. あまりそうなったとは思わない	59	6.14%
3. まあまあそうなった	259	26.95%
4. そうなった	320	33.30%
5. 以前からそうだった	298	31.01%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-31 人との和を大事にするようになった

I-30角がとれて丸くなった

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	56	5.83%
2. あまりそうなったとは思わない	209	21.75%
3. まあまあそうなった	355	36.94%
4. そうなった	237	24.66%
5. 以前からそうだった	90	9.37%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-32 角が取れて丸くなった

I-31度胸がついた。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	63	6.56%
2. あまりそうなったとは思わない	194	20.19%
3. まあまあそうなった	310	32.26%
4. そうなった	264	27.47%
5. 以前からそうだった	118	12.28%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-33 度胸がついた

I-32自分の立場や考えはちゃんと主張しなければと思うようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	46	4.79%
2. あまりそうなったとは思わない	179	18.63%
3. まあまあそうなった	336	34.96%
4. そうなった	243	25.29%
5. 以前からそうだった	143	14.88%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-34 自分の立場や考えはちゃんと主張しなければと思うようになった

I-33他人に対して寛大になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	32	3.33%
2. あまりそうなったとは思わない	156	16.23%
3. まあまあそうなった	407	42.35%
4. そうなった	263	27.37%
5. 以前からそうだった	90	9.37%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-35 他人に対して寛大になった

I-34子ども好きになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	28	2.91%
2. あまりそうなったとは思わない	90	9.37%
3. まあまあそうなった	251	26.12%
4. そうなった	276	28.72%
5. 以前からそうだった	305	31.74%
無回答	11	1.14%
合計	961	100.00%

表 2-36 子ども好きになった

I-35いろいろな角度から物事を見るようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	22	2.29%
2. あまりそうなったとは思わない	136	14.15%
3. まあまあそうなった	356	37.04%
4. そうなった	322	33.51%
5. 以前からそうだった	114	11.86%
無回答	11	1.14%
合計	961	100.00%

表 2-37 いろいろな角度から物事を見るよう

になった。

I-36自分の健康に気をつけるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	24	2.50%
2. あまりそうなったとは思わない	79	8.22%
3. まあまあそうなった	237	24.66%
4. そうなった	479	49.84%
5. 以前からそうだった	130	13.53%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-38 自分の健康に気をつけるようになった

I-37長生きしなければと思うようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	57	5.93%
2. あまりそうなったとは思わない	118	12.28%
3. まあまあそうなった	233	24.25%
4. そうなった	448	46.62%
5. 以前からそうだった	93	9.68%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-39 長生きしなければと思うようになった

I-38運や巡りあわせを考えるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	90	9.37%
2. あまりそうなったとは思わない	171	17.79%
3. まあまあそうなった	231	24.04%
4. そうなった	307	31.95%
5. 以前からそうだった	150	15.61%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-40 運や巡りあわせを考えるようになった

I-39思い通りにならないことがあっても我慢できるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	22	2.29%
2. あまりそうなったとは思わない	109	11.34%
3. まあまあそうなった	388	40.37%
4. そうなった	251	26.12%
5. 以前からそうだった	177	18.42%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-41 思い通りにならないことがあっても我慢できるようになった

I-40協力することの大切さがわかるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	6	0.62%
2. あまりそうなったとは思わない	48	4.99%
3. まあまあそうなった	292	30.39%
4. そうなった	354	36.84%
5. 以前からそうだった	246	25.60%
無回答	15	1.56%
合計	961	100.00%

表 2-42 協力することの大切さがわかるようになった

I-41長幼の序は大切だと思うようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	35	3.64%
2. あまりそうなったとは思わない	138	14.36%
3. まあまあそうなった	364	37.88%
4. そうなった	256	26.64%
5. 以前からそうだった	142	14.78%
無回答	26	2.71%
合計	961	100.00%

表 2-43 長幼の序は大切だとおもうようになった

I-42子どもへの関心が強くなった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	11	1.14%
2. あまりそうだったとは思わない	24	2.50%
3. まあまあそうだった	177	18.42%
4. そうだった	568	59.11%
5. 以前からそうだった	164	17.07%
無回答	17	1.77%
合計	961	100.00%

表 2-44 子どもへの関心が強くなった

I-43自分の分をわきまえるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	33	3.43%
2. あまりそうだったとは思わない	149	15.50%
3. まあまあそうだった	389	40.48%
4. そうだった	224	23.31%
5. 以前からそうだった	152	15.82%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-45 自分の分をわきまえるようになった

I-44一人前になった気がし

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	171	17.79%
2. あまりそうだったとは思わない	352	36.63%
3. まあまあそうだった	262	27.26%
4. そうだった	135	14.05%
5. 以前からそうだった	26	2.71%
無回答	15	1.56%
合計	961	100.00%

表 2-46 一人前になった気がした

I-45より大人になったと感じ

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	147	15.30%
2. あまりそうだったとは思わない	305	31.74%
3. まあまあそうだった	300	31.22%
4. そうだった	171	17.79%
5. 以前からそうだった	25	2.60%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-47 より大人になったと感じる

I-46自分の欲しいものなどが我慢できるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	65	6.76%
2. あまりそうだったとは思わない	123	12.80%
3. まあまあそうだった	324	33.71%
4. そうだった	252	26.22%
5. 以前からそうだった	184	19.15%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-48 自分の欲しいものなどが我慢できるようになった

I-47環境問題(大気汚染・食品公害など)に関心が増した。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	27	2.81%
2. あまりそうだったとは思わない	67	6.97%
3. まあまあそうだった	242	25.18%
4. そうだった	453	47.14%
5. 以前からそうだった	158	16.44%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-49 環境問題(大気汚染・食品公害)に関心が増した

I-48情にもろくなった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	37	3.85%
2. あまりそうだったとは思わない	112	11.65%
3. まあまあそうだった	186	19.35%
4. そうだった	359	37.36%
5. 以前からそうだった	253	26.33%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-50 情にもろくなった。

I-49いろいろな人に支えられていると感じるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	9	0.94%
2. あまりそうなったとは思わない	20	2.08%
3. まあまあそうなった	116	12.07%
4. そうなった	629	65.45%
5. 以前からそうだった	174	18.11%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 1-51 いろいろな人に支えられていると感じるようになった

¹ 柏木恵子、若松素子『親となる』ことによる人格発達：生涯発達の視点から親を研究する試み』『発達心理学研究』第5巻、第1号、72-83頁。

² 1と同書76頁引用。

VI 単純集計<親への調査票>

3. 親にとっての事業利用はどのような経験となっているか

<要旨>

ファミリー・サポート・センター事業において、親は、どのような経験をしているのだろうか。保育の提供者と利用者は、単なる子どもを預ける、預かるだけのかかわりなのだろうか。このことを明らかにするために、ファミリー・サポート・センター事業を利用している親の経験について検討した。

その結果、保育士と違い、保育の専門家ではない提供会員に、子どもを預けることに対して、「不安」だと思っている利用者が1割以下であることがわかった。また、家庭的保育は、個々の家庭のプライバシーの問題に触れる場合があり、提供会員も注意をしているようだが、利用者にとっては、「提供会員に、プライベートなことを聞かれ嫌な思いをした。」は、約9割が「ない」あるいは「あまりない」と感じていることがわかった。提供会員がプライバシーに踏み込んでいないのか、あるいは、保育をする側と利用する側が、家庭生活のことを親身に話せる間柄になっているのか、二つのパターンが考えられる。

また、家事についての項目は、2項目とも8割前後が、「ない」あるいは「あまりない」と回答している。ただ、自由記述の中では、家事を手伝って頂いて感謝している利用者もいる。

一方、提供会員を、地域のボランティア(有償・無償)として尊敬している割合は、非常に高い。この点は、提供会員の利用者に対する関わりが、利用者の意識を変える要素になっていると考えられるので、さらに検証が必要な項目である。

また、「我が子にいろいろな人が関わって育ててくれていると実感した。」や、「提供会員から、身内や親戚の様に気にかけてもらった。」「提供会員のおかげで、家族以外の人と関わる機会ができた。」など、利用者である親は、地域の住民との関わりに感謝していることがわかる。

1. 問題状況

ファミリー・サポート・センター事業において、親は、どのような経験をしているのだろうか。保育の提供者と利用者は、単なる子どもを預ける、預かるだけのかかわりなのだろうか。

ファミリー・サポート・センター事業を通じた経験について検証された先行研究は、管見の限り見あたらない。そこで、ここでは質問項目を選定するため、予備調査を行った。

2. 質問項目の選定

2-1. 予備調査

予備調査を行うに当たって、序章で述べたエスクに2007年11月、ヒアリング調査に行き、ファミリー・サポート・センター事業を利用する中で、親がどのような経験をしているのか、ヒアリングを行った。そのヒアリングの中から、以下の29項目を選定した。

- 1 提供会員に、育児の悩みを聞いてもらう。
- 2 提供会員に、家事や育児の方法を習う。
- 3 提供会員に、家事や育児(預かる以外)を